

【授業前の準備】

- ・宿題ノートや添削課題を教卓へ提出し、お手洗いはすませておいてください。
- ・筆記用具など忘れ物がないかを確認し、忘れ物があるときは受付へ相談しに行きましょう。
- ・スマートフォンなど音が出る機器はサイレント(無音)モードにするか、電源をオフにしましょう。

【授業の受けかた】

- ・飲み物は飲みたいタイミングで飲んでかまいません。食べ物アメやガムをふくめ禁止です。
- ・お手洗いにきたくなったときや体調が悪いときは、遠慮せず手をあげて申告してください。
- ・授業にふさわしくない言動や姿勢は注意します。
(私語、不規則発言、机えのつつし、居眠り、イスあそび、テキスト立て、ペン遊び など)
- ・途中式や答えはテキストに書きこまず、授業用ノートへ実施してください。
(問題文への線引きや図形問題の条件等は書きこんでかまいません)
- ・とくに指示がある場合をのぞき、板書の内容はすべてノートにとるようにしましょう。

【クラス共通の宿題】 第1回～第8回

(1) 授業で実施した問題 ×問再実施 (新演習:基本と練習 コンプリーション:実力アップ2単元ぶん)

(2) 基本問題の残り 全問 (新演習の授業対応回)

(3) 計算日記 1日1ページ×6日/週 (新演習の授業対応回・1ページ10分～15分を目安に実施)

(4) 確認テスト「確認テストの進めかた」を守って実施 (新演習の授業対応回)

(5) 【予習】トレーニング (新演習) ・ 基本チェック2単元以上 (コンプリーション)

☆ 予習は次回授業実施予定の回を実施してください。
(9/12まで … 新演習第2回 / コンプリーション第3単元と第4単元)

→ 新演習第1回のトレーニング、コンプリーション第1単元と第2単元の基本チェックは
9/26までに完了(シルバーウィーク中に実施)しましょう。

(6) 志望校の過去問 (週に1回分以上が目安) / 受けた模試の解き直し

☆ 志望校の過去問は裏面の「過去問の進めかた」を参考に進めてください。

☆ 外部模試は、「合格ワンテスト」または「合不合判定テスト」のいずれかの受検でかまいません。

☆ 解説を見ても理解できない問題は、実施時点では「捨て問」としてください。
(過去問と同様に印分けを実施/取れる問題を「取り切る」訓練という意識でのぞみましょう)

☆ 模試の解き直しも「過去問ノート」に実施してください。

※ 「クラス共通の宿題」は、算数が得意な場合は5h～/週、苦手な場合は8h～/週必要な想定です。
(アタックテスト偏差値55～を目指した課題内容になっています)
少なくとも(1)(3)(4)(5)は毎週確実に完了する計画を立ててください。

※ (5)の予習はどんどん進めてかまいません。(基礎力を早めに完成したい場合は前倒しで進めましょう)

【任意課題】

(7) プラスワン問題集 または 塾技算数 (市販教材) ※ 実施推奨(目標)アタックテスト偏差値60～

(8) 練習問題の残り 全問を実施 (授業実施回) ※ 実施推奨(目標)アタックテスト偏差値65～

※ (7)・(8)は、演習量を確保してさらに算数の力をつけていきたい場合に実施してください。
「プラスワン問題集」「塾技算数」はいずれかの実施でかまいません。

※ (1)～(6)の実施で手一杯の場合は、(1)～(6)の完成を優先しましょう。

【家庭学習を実施するうえでの注意点】

・それぞれの教材の演習はなるべく教材ごとにノートを分けて実施・提出してください。
(確認テストは添削用紙へ実施/過去問・模試の解き直しは「過去問ノート」をつくって実施)

・すべての課題について、「○つけをする」「×問は解説を確認して、なおしをする」「×問を自力で解けるまでもう一度解き直す」までが宿題です。

・うまくやり切れないなど、学習計画に悩む場合は遠慮なく相談してください。

【確認テストの進めかた】

- ① 配布された添削用紙をたてに半分で折り、実施日・名前を書く。
- ② タイマーをセットし、途中式や筆算をできる限り残しながら全問を実施する。

☆ 答えにはアンダーラインを引き、単位があるものは単位をつけて答えとしてください。

☆ 見る人に解きかたが伝わる途中式・字を書きましょう。

☆ 図形に書きこみが必要な問題は添削用紙に問題の図をうつし、うつした図へ書きこみをして解いてください。
- ③ 実施にかかった時間を添削用紙の左上へメモし、解答を確認して○つけをする。
- ④ ×問は解説や授業用ノートを確認して、ミスの修正(なおし)やメモをする。

☆ 解説やノートを確認しても解きかたがわからない問題は、何がわからないかをなるべく具体的にメモを残し、解き直しはとばしてください。
- ⑤ ④で理解した内容をふまえ、×問を自力で余白へもう一度解きなおす。

☆ スペースが足りない場合は、うら面をつかってもかまいません。

実力との差が大きすぎる学校の過去問は、実施をしても実力向上の助けにはなりません。
 歯が立たないと感じる場合は、地力向上の学習(テキスト・コンプリーションなど)を優先しましょう。